

令和5年度 青森市自動車運送事業運営審議会 会議概要

【日 時】 令和5年11月1日（水）13：30～14：45

【場 所】 青森市福祉増進センター（しあわせプラザ）3階 大会議室

【出席者】 井上隆会長、柳谷章二副会長、小豆畑緑委員、軽米智雅子委員、清水明彦委員、千葉敏彦委員、中村美津緒委員

【事務局】 鈴木公営企業管理者、佐々木部長、高野次長、今村課長、嘉瀬主幹、岸主幹、川村主幹、三浦主幹、立崎主幹、鎌田営業所長

【会議次第】

1 委嘱状交付式

- (1) 委嘱状交付
- (2) 公営企業管理者企業局長挨拶

2 組織会

- (1) 委員紹介
- (2) 委員挨拶
- (3) 会長選出 ⇒ 互選により井上隆委員を選出
副会長選出 ⇒ 会長指名により柳谷章二委員を選出

3 会議

- (1) 経営状況について

会議概要

(1) 経営状況について

資料に基づき事務局より説明。

《質疑応答等》

(会長)

資料として配付している「青森市自動車運送事業経営戦略(2021-2030)」は令和3年3月に完成し、翌年度から動き出したものである。しかし令和2年度当初から新型コロナウイルス感染症の感染拡大が始まり人の移動が抑制された。これは自動車運送事業にとっては厳しい逆風となったと思う。さらには昨年2月に東欧で紛争が起き、これが原油等の国際相場を押し上げたことで、これも旅客運送事業には逆風となった。

こうした逆風の中で経営戦略に沿った事業を展開しなくてはいけないという意味では、たいへん厳しい船出をしたと思う。このような逆風の中では計画と実績の乖離が生じてもいたしかたないと思うが、資料を見た限りでは、計画と実績との乖離が小さく、次第に改善

されていて、これは交通部の努力の成果だろうと思う。

(委員)

過去に、平成20年頃だと思うが、市の一般会計から借入れをしたと聞いたが、当時、いくらぐらい借りて、どのように返済してきたのか。

(事務局)

借入れは平成18年度に2億7500万、平成20年度に6億5000万円である。そして令和4年度から償還している。

(委員)

慢性的な資金不足があると思うが、他の金融機関から資金不足を解消するために一時的に借りた一時借入金があったのか。

(事務局)

ありません。

(会長)

令和5年度に10両のノンステップバスの導入を予定していると説明があったが、10月末時点で、何台か導入済みとなっているのか。

(事務局)

今年度はすでに新車5台と中古車5台を購入し、現在、納品に向け作業中である。

(委員)

運転士として女性の採用を進めていただきたい。

(事務局)

交通部では女性専用の更衣室を設けるなどの環境の整備や、子育てなどのライフイベントにも柔軟に対応できるように短時間の勤務制度を設けて乗務員を募集している。

(委員)

ICカードの利用情報については、今後、停留所の情報など詳しい情報を付加してカスタマイズできれば、より精度の高い指標として活用できるのではないかと思う。

(事務局)

AOPASS(アオパス)が導入され、そのデータをどのように分析して活用するか検討しているところである。

(委員)

観光振興に役立つよう、観光客が多く訪れる施設の近くにバス停の新設をお願いしたい。

(事務局)

バス停の新設については、利用状況等を参考に総合的に検討し、適正な場所に設置したいと考えている。

(委員)

新市長が掲げるデマンド交通について交通部はどのように受け止めているか。

(事務局)

デマンド交通は全国各地で行われており、今後の交通手段のひとつと思うので、交通部として市の交通施策全体の取組と連携して協力していきたい。

(委員)

バスの環境対策として、従来のディーゼル車から、今後は電気や天然ガスなどの新エネルギーや代替燃料に代わっていくと思うので、そのような環境対策の導入も長期的に視野にいられてはどうか。

(事務局)

バスの環境対策は全国的な流れであり交通部としても情報収集を進めていきたい。

(委員)

代替燃料のバスについては、1台でも試行的に導入することで、市民の環境への関心や意識を高める効果も期待できるため検討していただきたい。

(委員)

市内に雪国懇談会というボランティアグループがあり、国道4号線・7号線沿いのバス停に毎年、除雪用のスコップを設置しているが、これ以外のバス停にもスコップを設置してみてもどうか。

(事務局)

停留所の除雪は、状況に応じて職員が除雪しているほか、場所によってはスコップを置いて、町会の協力を得て除雪していただいているところもある。今後も地域の協力を得ながら除雪の対応をしていきたい。

(委員)

ねぶた祭や花火大会開催時の増便や臨時便の対策はどのようにしているか。

(事務局)

ねぶた祭や花火大会開催時には混雑解消のため、定期便に加えて臨時便を増便して運行しており、今後もこのような対応を続けていきたい。

(委員)

青森駅西口広場の乗り入れに伴う北部、西部方面へのダイヤ編成と、利用状況はどのようなになっているのか。

(事務局)

西口駅前広場が完成する前は1日当たり約20便が駅西口に停車していたが、西口駅前広場のオープン後は約65便が乗り入れている。北部方面、野木和団地から来るバスは、必ず西口広場に入ってから東部方面に行き、また東部方面から来るバスは、青森駅前から発車しているバスを除いて、必ず西口駅前広場に乗り入れしてから、野木和方面に行くルートとしている。

なお新城方面のルートについては、数台、西口駅前広場に乗り入れているが、古川以降の需要が高く、新城から西口広場を経由して古川に行くと時間を要するため、現在は試験的に乗り入れする便を運行している。

西口駅前広場への市営バス乗り入れについては、今年1年間を試験運行という位置付けにしており、今年1年間の運行状況と利用状況を踏まえても、ダイヤについて再検討する予定である。

なお、9月末時点の利用状況では、従来の西口で乗降していた人数と比較すると、約3倍以上の利用者があり、ある程度ニーズに対応しているものと考えている。

(委員)

ダイヤ編成については引き続き検討していただきたい。

(委員)

女性用の更衣室や短時間勤務等、女性が働きやすい職場づくりについて工夫していると思うが、どのような職場環境かという点についてのアピールが大事だと思う。

働きやすい環境であることが伝わるような写真等を活用してアピールしていくと、若い世代に伝わりやすいと思う。

また、バスロケーションシステムやおもりマイ時刻表の便利なサービスについて、自分の周囲にそのようなサービスがあることを知らない人がまだ多くいるので、より丁寧に、広報おもりにも定期的に掲載するなどして周知を工夫していくべきと思う。

また、青森市内で働いている在留外国人からバス停の表記等がわかりにくいという声を聞くので、QRコード等を活用して多言語で表記する取組についても周知して、在留外国人もバスを利用しやすくなるように工夫していただきたい。

(事務局)

交通部の取組を多くの人に知っていただくということが、バスの利用につながっていくと思うので、今いただいた意見も含めて、交通部としてPR、アピールに引き続き取り組んで参りたい。

(事務局)

在留外国人を対象とするバスの乗り方教室を実施する予定があるほか、バス停にQRコードをつける取組を進めており、まだ中国語と英語だけではあるが、QRコードを読み取ると、外国語でバスの乗り方が表示されるようにしているところ。今後、対応できる言語を増やすように取り組みたいと考えている。

(委員)

私から「ねぶたん号」の新たなバス停の設置と、デマンド交通に関して補足したい。

昨年度の会議で、委員から観光客が多く訪れる富田地区の伝統工芸品の店舗施設付近に、観光ルートバスの「ねぶたん号」のバス停を設置できないかのご意見をいただき、検討したところだが、どうしてもバス停の設置には条件や環境の制約があり、当該施設については跨線橋の側道に接しているために近くにバス停を置けないなどの点で、利用者のニーズにかなわない状況があるため、現時点ではバス停の設置は難しいと考えているところ。

また、デマンドバスについては全国的に取組が進んでいるが、その背景の多くは民間バスが撤退した地域や、交通の空白地域への対応として取り組んでいる。青森市の場合は、市営バスが継続できればこれに越したことはないが、利用状況により継続が難しいといったときに、代替りの代替交通をどうしようかということ、市営バスや市民バスを含めて検討することになると思うし、また交通の空白地域のところをどうするかということも、全体としてまずどのような交通を入れるかということも含めて、交通部と都市整備部を含めて、検討することになると考えている。

(会長)

それではこのあたりで質疑を終了したいと思います。皆様ありがとうございました。